

令和3年7月8日

鹿児島大学病院 B棟3階 脳神経外科で  
放射線治療・テモソロミド併用化学療法の治療を受けた患者さんへ  
( 医学系研究に関する情報 )

鹿児島大学病院 B棟3階病棟（脳神経外科）では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

悪性神経膠腫患者の放射線治療による眼粘膜障害出現に影響する要因

【研究機関】

鹿児島大学病院 B棟3階病棟

【研究責任者】

鹿児島大学病院 B棟3階病棟

職・氏名 看護師 岩榮 寿美

【研究の目的】

当病院は都道府県がん診療連携拠点病院であり、当病棟は脳腫瘍の治療を行う患者さんが多く、手術、化学療法、放射線治療を実施しています。放射線治療を行う脳腫瘍には神経膠腫、悪性リンパ腫、髄膜腫、転移性脳腫瘍などがあります。照射線量は高グレードの脳腫瘍ほど多くなり、副作用の程度も大きくなります。高グレードの脳腫瘍として临床上多くみる悪性神経膠腫（グレード4の膠芽腫とグレード3の退形成性星細胞腫、退形成性乏突起膠

腫)は、手術後の後療法として放射線治療+テモソロミド併用化学療法の実施が標準治療です。放射線治療の副作用には皮膚炎があり、その中でも眼とその周囲に症状が出現すると結膜炎、角膜炎、眼周囲の発赤・びらんといった早期有害事象が出現します。放射線照射部の清潔ケアが不十分となると炎症を起こし疼痛の出現や眼脂がみられます。当病棟では現在、眼粘膜症状が出現した場合、抗炎症、抗菌薬の点眼や眼軟膏を塗布することや、清拭を行い眼周囲を清潔に保つようにはしていますが、治療開始前から眼の粘膜症状が出現しやすい患者さんを予測し、予防的なケア介入を実施していきたいと考えました。

今回、悪性神経膠腫の患者さんを対象に放射線治療による眼粘膜障害が発生しやすい要因を明らかにすることで、副作用軽減を目的とした予防的看護ケア介入の一助とします。

#### 【研究の方法】

医師の診療録や看護記録において眼粘膜症状出現の有無や影響すると予測される要因のデータを収集し、統計的に解析します。

#### 【対象となる患者さん】

2018年4月1日から2021年3月31日までの3年間に、鹿児島大学病院脳神経外科で退形成性星細胞腫、退形成性乏突起膠腫、膠芽腫と診断され、放射線治療+テモソロミド併用化学療法を受けられた患者さん約100名に参加のご協力をお願いし、2022年3月31日まで研究を行います。

#### 【試料や診療録(カルテ)から利用する情報】

医師の診療録や看護記録において眼粘膜症状記述の有無、抗菌薬の点眼の処方・角膜保護の点眼の処方の有無、放射線治療計画書の情報、既往歴の情報を利用します。使用した診療情報は、この研究が終了してから2022年3月31日まで鹿児島大学病院B棟3階病棟で保管いたします(管理責任者：B棟3階病棟、看護師長 川島優子)。保存期間を満了後、個人を特定でき

ない形に粉碎し廃棄いたします。

【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、企業等の第三者機関からこの研究のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番地1号

鹿児島大学病院 B棟3階病棟

看護師 岩榮 寿美

電話 TEL：099-275-6571 FAX 099-275-6574